笑顔いっぱいの学校

かけはし

第３号

平成28年7月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

晴れの日，雨の日

校長　　川　崎　直　人

夏本番を迎えますが，学校前の花壇の花も色鮮やかに咲き誇っています。自然の植物がたくましく伸びゆく様は，私たちに勇気と希望を与えてくれます。

草や木が生長にとってなくてはならないのが，雨の日であり，またよく晴れた日です。どちらもちょうどいいバランスで繰り返されるので，幹や枝は大きくなり，葉は勢いよく生い茂ります。もし，雨ばかり降っていれば，植物は根が腐ってそだちません。逆に晴れの日ばかりでも，水分がなくなって枯れてしまします。

このように，植物の生長には反対のもの同士が必要です。子どもの心の成長にも，雨と晴れのようにまったく反対のものが必要です。そして，それらは「やさしさ」と「きびしさ」です。子どもたちは，「やさしさ」だけでは甘えが出たり，わがままが出たりして，よい心は育ちません。また逆に，「きびしさ」だけでも気持ちがすさんだり，いらいらしたりして，よい心は育ちません。

子どもたちは，一日のなかで，何回か注意されたり，ほめられたりする機会があると思います。そのときに，きびしく注意したり，やさしくほめてあげたりすることが一番必要です。きびしく叱ったり，指摘したりした後でも，なぜ注意されたのか気づくようになれば，ほめてあげることも大切です。

子どもたちは，時々過ちを犯すこともあるかもしれませんが，そのときに，きびしく注意されたり，やさしくほめられたりすることによって，的確な判断ができる人に成長していきます。

このようなことを繰り返し経験することにより，子どもたちは社会の一員として，自覚を持った人間に成長していくのだと思います。